

(2) インターチェンジ配置案（組み合わせ案）の検討

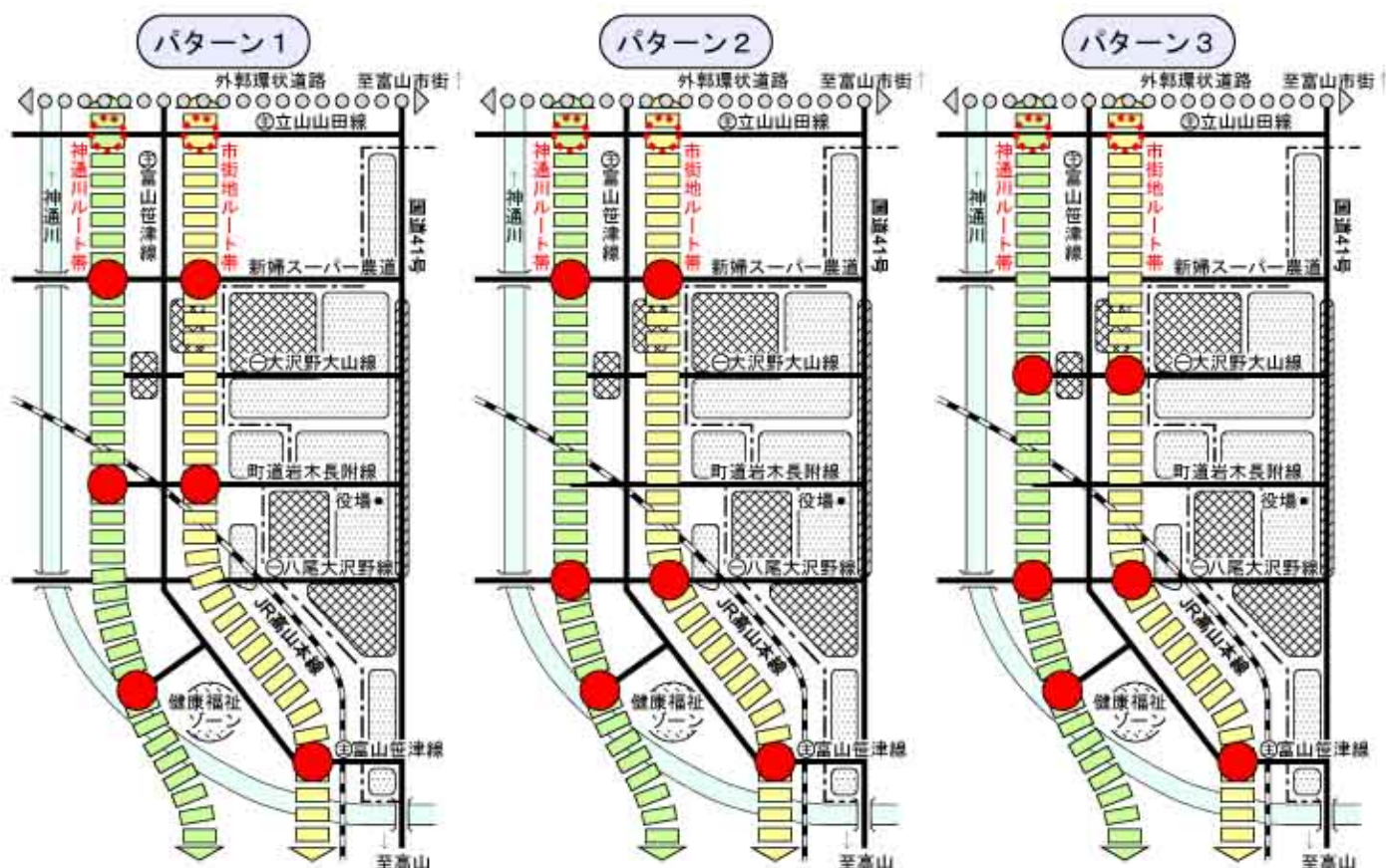
大沢野町にとってインターチェンジの設置個所が多ければ、大沢野道路の利用性が高くなります。

しかしながら、インターチェンジの間隔は、1 km程度確保する必要があることから、全てのアクセス道路にインターチェンジを設置することはできません。

そこで、インターチェンジ間隔が確保できる条件のなかで、できるだけインターチェンジの設置個所が多くなるように組み合わせ案（パターン1～3）を設定しました。

表. アクセス拠点とアクセス道路

アクセス拠点	アクセス道路	将来の道路幅員
①中心市街地 (買い物、通院、通学など)	●町道岩木長附線 ●一般県道八尾大沢野線	20.0m 20.0m
②中大久保企業団地及び その周辺の企業団地	●新婦スーパー農道 ●一般県道大沢野大山線	9.0～12.0m 25.0m
③高内地区大規模工業集積地	●町道岩木長附線 ●一般県道八尾大沢野線	20.0m 20.0m
④八尾中核工業団地	●新婦スーパー農道	9.0～12.0m
⑤総合健康福祉ゾーン	●主要地方道富山笹津線 (都)笹津春日線 ●町道健康福祉センター線	8.0m 20.75m
⑥大沢野運動公園	●一般県道大沢野大山線	25.0m



(注)これらの3つのパターンは代表的なものであり、ルート帯とインターチェンジの位置の組み合わせによって、他のパターンも考えられます。

※・立山山田線は、外郭環状道路が具体化した時点で、改めて検討することとしています。

本パンフレットに対するご意見・ご質問をお待ちしております。

(このパンフレットは再生紙を使用しています。)